



# CSR 報告書 2019



**白金、Platinum**  
触媒から抗がん剤まで、可能性を十分に秘めた期待の星。



**金、Gold**  
装飾用はもちろん、携帯電話やスマホの中で極細線となって電気をつなぐ大切な役目を果たすマルチタレント。



**銀、Silver**  
銀なくして写真は生まれなかった。鏡にも使われる身近な存在。



**パラジウム、Palladium**  
水素を大量に取り込める性質で高純度水素製造装置として威力を発揮。



**ロジウム、Rhodium**  
塊の状態であれば、どんなものにも溶けない。非常に硬く、表面を硬くするためにめっきに使われる。



**イリジウム、Iridium**  
硬さ、耐食性に優れ、自動車用スパークプラグや、高温に耐えるためLED用サファイヤ基板製造用のつぼにも使用されている。



**ルテニウム、Ruthenium**  
水から水素を発生させる光触媒として活躍。ハードディスクの記録容量の増加に貢献。



**オスミウム、Osmium**  
バイオテクノロジーや科学捜査に役立っている。

## ISO26000の中核主題



組織統治



人権



労働慣行



環境



公正な事業慣行



消費者課題



コミュニティへの参画及びコミュニティの発展



この冊子は石灰石から生まれた環境に優しい新素材LIMEXを使用しており、1冊で約16Lの水を守ります。



見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。



## 企業理念

TANAKAグループは、  
貴金属のリーディングカンパニーとして、  
創造性あふれる技術力をもって、  
お客様の信頼と期待にスピーディーに応え、  
貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会の実現と、  
美しい地球の未来に貢献します。

## 行動指針 Code of Conduct

- |          |                           |
|----------|---------------------------|
| 1. あいさつ  | <b>Greet Everyone</b>     |
| 1. えがお   | <b>Show your Smile</b>    |
| 1. かんしゃ  | <b>Give Thanks</b>        |
| 1. あんぜん  | <b>Maintain Safety</b>    |
| 1. ちょうせん | <b>Challenge Yourself</b> |

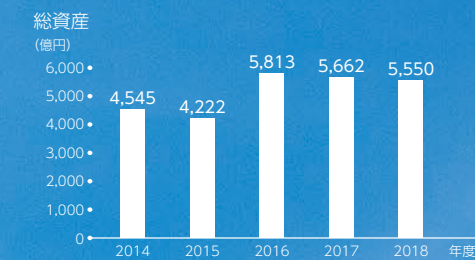
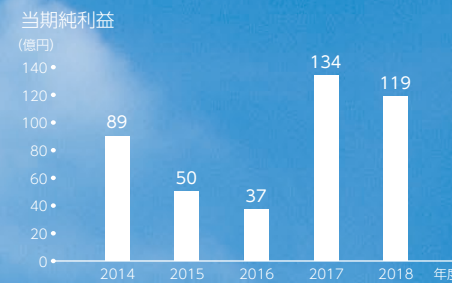
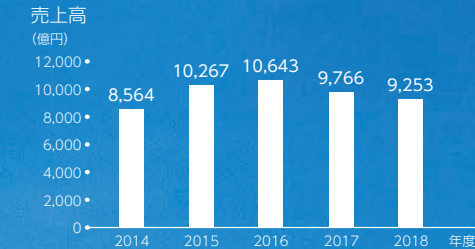


田中貴金属工業(株)は、ロンドン地金市場協会(LBMA)より、金および銀の公認審査会社に任命されています。また、ロンドン・プラチナ・パラジウム・マーケット(LPPM)の公認審査会社にも任命されています。どちらも、世界で5社のみ(国内では田中貴金属工業(株)のみ)が、貴金属の公認溶解業者の溶解技術・分析能力を審査する使命を担っています。

## 田中貴金属グループ財務状況

### 業績要約

	2017年度	2018年度	前年度比
売上高	976,613	925,259	94.7%
当期純利益	13,391	11,851	88.5%
総資産	566,196	554,959	98.0%
自己資本比率	37.0%	40.8%	—



メタローテクノロジーズインターナショナル(株)含む

## 国内拠点

### TANAKAホールディングス株式会社 (THD)

●本社(東京)

### 田中貴金属工業株式会社 (TKK)

●本社(東京) ●岩手工場 ●富岡工場 ●市川工場 ●袖ヶ浦工場  
●伊勢原工場 ●平塚工場 ●湘南工場 ●平塚テクニカルセンター  
●筑波事業所(テクニカルセンター) ●伊勢原テクニカルセンター  
●FC触媒開発センター ●TANAKA物流センター  
●名古屋支店 ●大阪支店 ●福岡支店 ●京都営業所

### 田中電子工業株式会社 (TD)

●佐賀本社工場 ●東京事務所 ●湘南分工場

## 海外拠点

### 田中貴金属工業株式会社 (TKK)

●台湾田中貴金属工業股份有限公司 ●台北営業 ●高雄営業 ●田中先端有色金属材料(寧波)有限公司 ●田中先端有色金属材料(成都)有限公司 ●ソウル支店  
●香港支店 ●田中貴金属(上海)有限公司 ●田中貴金属(上海)有限公司 深圳支店 ●田中貴金属(シンガポール)株式会社  
●田中貴金属(シンガポール)株式会社 マニラ支店 ●田中貴金属インターナショナル(タイランド)株式会社 ●田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社  
●田中貴金属インターナショナル(アメリカ)株式会社 サンノゼ支店 ●田中貴金属インターナショナル(欧州)有限公司

### 田中電子工業株式会社 (TD)

●田中エレクトロニクス・シンガポール Pte. Ltd. (TES) ●田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn. Bhd. (TEM) ●田中電子(杭州)有限公司 (TEC)  
●台湾田中電子股份有限公司 (TET) ●台湾田中電子股份有限公司 テクニカルセンター (TET/TC)

### 日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

●EEJA(Shanghai) Co., Ltd.

### 成都光明派特貴金属有限公司 (GMPT)

### メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社

### LT Metal Co., Ltd. (LT Metal)

### 株式会社日本ピージーエム (PGM)

●NIPPON PGM AMERICA, Inc. ●NIPPON PGM EUROPE S.R.O.

2019年5月末現在

### 日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ株式会社 (EEJA)

●本社(東京) ●平塚事業所

### 田中貴金属ジュエリー株式会社 (TKJ)

●銀座本店 ●新宿店 ●ホテル椿山荘東京店 ●伊勢丹立川店 ●伊勢丹浦和店  
●横浜元町店 ●仙台店 ●名古屋店 ●名古屋三越 栄店  
●心齋橋店 ●高松三越店 ●福岡 西鉄グランドホテル店

### 株式会社日本ピージーエム (PGM)

●本社(東京) ●小坂工場

**編集方針** CSR報告書は、貴金属がもたらすゆとりある豊かな社会と美しい地球の未来の実現に向けて田中貴金属グループが進めているCSR(企業の社会的責任)活動を報告するとともに、今後の取り組みのレベルアップに向けてステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図ることを目的に発行しています。昨年版よりデザインコンセプトを「泉」とし、「汲めども尽きぬ泉」のように田中貴金属グループから新たな価値が生まれ社会に貢献している様子を象徴的に表現しています。皆様のお声を田中貴金属グループの今後の取り組みに活かしていきたいと考えておりますので、ご意見・ご感想をお寄せいただければ幸いです。

**対象期間** 2018年4月1日～2019年3月31日  
但し、各テーマに沿った会社の活動の全体像を知っていただくために、一部対象期間外の内容も掲載しています。

**対象範囲** TANAKAホールディングス株式会社と連結子会社を含むグループ全体を対象としています。ただし、メタローテクノロジーズインターナショナル株式会社を除きます。なお、対象範囲が異なる場合は当該箇所に明示しています。

**発行時期** 2019年7月

**参考ガイドライン** ISO26000:2010  
環境報告ガイドライン2018年版

**ウェブサイト** 本報告書の閲覧はバックナンバーを含め、下記のウェブサイトをご利用ください。  
http://www.tanaka.co.jp/csr/index.html

**発行責任部署** TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 CSR推進部  
〒100-6422 東京都千代田区丸の内2-7-3 東京ビルディング22階  
TEL 03-6311-5506(直) FAX 03-6311-5508  
ホームページ http://www.tanaka.co.jp/about/csr

## CONTENTS

02 トップメッセージ

TANAKAの強み

04 TANAKAの事業と提供価値

持続可能な未来に向けて

06 さまざまな可能性を拓く

信頼を築き続ける

08 TANAKAの品質

10 地球環境を守る

14 地域・社会への貢献

16 一人ひとりの活躍

18 より安全な職場環境づくり

20 誠実で健全な  
企業であるために

22 CSRマネジメント  
CSRパフォーマンス

24 CSRパフォーマンスに  
関する第三者保証  
[CSR報告書2018]アンケート結果  
第三者所感

# 「2020年のありたい姿」の実現に欠かせない 確かな事業基盤を、グローバルに構築する

安全と健康を伴う真の生産性向上を追求しながら、多様なリスクにも備え、世界中のステークホルダーの皆様にご納得いただけるCSRを推進します。

## ■ 真の生産性向上を実現する

我々が身を置くモノ造り事業・素材業界においても、「第四次産業革命」の最中にある実感が、近年にもまして強くなってきました。IoTの概念から始まった「生産性向上」の機運は、来るべき働き手不足に向けてAI開発を後押しし、ビッグデータを保有する巨大データセンターがモノ造りの基盤として出現、そこへ日本においては「働き方改革」の側面から、関連法が2019年4月より施行されました。弊社としても、製造現場における生産性向上は従前より連続と取り組んできておりますが、開発・営業・管理部門においては、より生産性を高めねばならない一方で、この変化するビジネス環境ゆえに生じてくる「包括的な事業運営リスク」を的確に検出・対応し、適切なコーポレート・ガバナンスが保たれた前提でなければ、真の生産性向上には至らないと感じております。

これを貫く方針として私が最も重視していることが「安全を第一としたうえでの生産性向上」であり、従業員にいつも伝えています。これは製造現場に限った事ではなく、すべての職種・立場において、心身ともに健康であることが「生産性向上あってこそその働き方改革」を継続進化させていくための、知恵と工夫を産む土台になると思っています。

## ■ 2020年の「ありたい姿」に向けて

田中貴金属グループでは2015年度より開始した6年間の中期経営計画である「GOGO計画2020」を推進しています。2018年度は「GOGO計画2020」セカンドステージの初年度にあたり、この後半3年間で目指す目標を「ありたい姿」として設定し、貴金属事業の3本柱、即ち産業用・資産用・宝飾用の各事業の業績目標の達成に向けて活動してまいりました。

産業用事業では複数のトップ人事異動を行い、スイスの主力グループ会社Metalorで2019年1月に社長を交代、前社長が推進した事業基盤を新社長が引き継ぎ、TANAKA+Metalorという「新たな合金」を目指して事業展開を本格化しました。資産用事業では、お客様の利便性をさらに高めた新しいネット積立口座「田中貴金属の純金積立」を同じく2019年1月に上市しました。宝飾用事業においては、田中貴金属を愛してくださるお客様の声にお応えべく「金といえば田中貴金属=Back to the Gold」への原点回帰を打ち出しました。

これらのビジネス展開に伴い、グループ全体のリスク管理を司るべく2015年度に発足した「リスクマネジメント委員会」で、当社を取り巻くさまざまなリスクを抽出し、対応

を進めております。自然災害・労働安全衛生・環境問題・個人情報漏洩・秘密情報漏洩・紛争鉱物対応・金融派生商品関連と、対応範疇を細分化した上でリスク評価を行い、優先順位を決め対応策を実行しております。

## ■ 社会価値を生むモノ造りを追求する

一方で、2018年度は弊社のモノ造りに関する活動を認めていただいた事例が2つありました。一つ目は、中央労働災害防止協会様より、「平成30年度労働安全衛生活動表彰」において「中央労働災害防止協会会長賞」を賜る栄誉に恵まれました。同協会の活動を理解し、モノ造りの安全と労働衛生推進、ならびに地域・業界への貢献が認められる、とご評価をいただきました。二つ目は、経済産業省が後援、一般財団法人省エネルギーセンター様が主催される「平成30年度省エネ大賞 省エネ事例部門」において、弊社の素材供給のマザー工場である田中貴金属工業富岡工場が「審査委員会特別賞」を受賞しました。貴金属溶解炉や大型加工機械を多数保有する同工場で、多くの動力比を占めるコンプレッサーの動力削減・最適化に関する活動をご評価いただきました。

そしてKYC(Know Your Customer)に基づく顧客管理、およびCSR調達対応においても、2018年4月に新設し

た「取引審査部」を中心に強化を継続しております。

加えて、2019年4月から一部施行された働き方改革関連法への対応を一年前倒した形で、2018年度より年次有給休暇5日間の計画的な取得促進などに取り組んでまいりました。また2018年12月には健康企業宣言を行い、2019年度中に「健康企業・シルバー認定」を取得すべく活動を強化しております。

## ■ 世界のステークホルダーの皆様へ

様々な施策は、事業活動を安定的に継続し、CSR(企業の社会的責任)を果たすために欠かす事のできないものであり、今後もリスクマネジメント委員会を中心にリスク対応を確実に実施してまいります。

引き続き、グループ内コミュニケーション・連携をさらに強めて事業基盤を強化し、世界中のお客様、サプライヤー様、協力会社様をはじめとするすべてのステークホルダーの皆様にご納得いただくべく、よりCSR活動を推進発展させてまいります。本報告書を御一読いただいた皆様には、今後、よりグローバルにCSR活動を推進する田中貴金属グループにご期待いただけましたら望外であり、そのご期待に応えるべく、邁進する所存です。

## GOGO計画2020

### 2020年の田中貴金属グループのありたい姿

自由闊達な企業風土を継承し、  
貴金属事業の3本柱のさらなる推進により  
グローバル企業に成長・発展している

ありたい姿

始動

あるべき姿

2015年度

2017年度

2020年度

TANAKAホールディングス株式会社  
代表取締役社長執行役員  
田苗 明

田苗 明

# TANAKAの事業と提供価値

TANAKAは、創業から130年以上にわたり、  
貴金属による特別な価値を世界へ届け続けてきました。  
これからも、貴金属にできるすべてのことに取り組み、新しい領域を切り拓いていきます。

## 産業用 Industrial Products

半導体・電子部品から車載、医療まで、幅広い事業分野において  
お客様が抱える課題を解決する製品をお届けしています。  
“縁の下の力持ち”として、貴金属材料の供給を通じて産業全般を、  
そして社会の根幹を支えています。

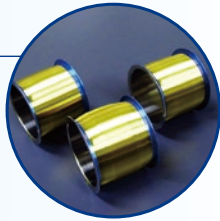
### AuAgカンパニー

金、銀、合金メタル系素材を提供  
(電気接点、ターゲット材料、接合材料、など)



### 半導体カンパニー

半導体デバイス向け材料を供給  
(ボンディングワイヤ、めっき液・装置)



### 化学回収カンパニー

貴金属回収精製事業を中心として  
ペースト、触媒、化合物を提供



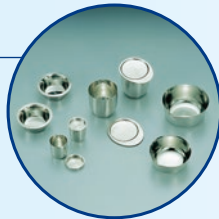
### 新事業カンパニー

社会に貢献する新規貴金属  
製品の創出および事業化



### PGMカンパニー

白金族系素材を提供  
(硝子溶解用白金装置、ハードディスク用  
ターゲット、センサー・医療用極細線、など)



## 資産用 Asset

資産を最適に分散し保全するための  
金・プラチナ商品を提供しています。



コイン

地金

## 宝飾用 Jewelry

人生のさまざまなシーンを輝かせる宝飾品を、  
長く愛するにふさわしい確かな品質で  
お届けしています。



ジュエリー

ブライダルジュエリー

工芸品

**田中貴金属の  
純金積立** 積立サービス

## TANAKAの強み

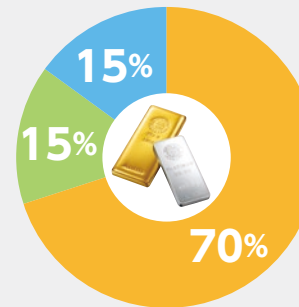
田中貴金属グループは、貴金属を取り扱う両替商として1885年に東京で設立されました。以来、貴金属を材料とする産業用製品を提供することで社会の発展を支えてきました。

1907年、電球に使われた白金フィラメントの工業化に成功。その後、貴金属材料を主とした通信機用接点、クロスバー型電話交換機接点などを生産し、以後ボンディング用金極細線、自動車用センサー・排ガス浄化用触媒、燃料電池用触媒、LED用サファイア基板製造用つぼ等を製品化、貴金属材料の開発・商品化を進めています。

これからも「貴金属を究める」をスローガンに、貴金属を中心とする材料の研究開発および安定供給を行う事業活動を通じて、環境問題、エネルギー対策、環境汚染対策に積極的に挑戦し、ゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献してまいります。

### グループの活動基盤

TANAKAの活動基盤は貴金属8元素である白金(Pt)、金(Au)、銀(Ag)、パラジウム(Pd)、ロジウム(Rh)、イリジウム(Ir)、ルテニウム(Ru)、オスmium(Os)。事業の7割は産業用貴金属製品です。わたしたちの身の回りにある、あらゆる家電・情報機器・自動車などでTANAKAの製品が活躍しています。



- 産業用貴金属製品**  
さまざまな業種・製品の素材として、調達からリサイクルまで展開
- 貴金属資産商品**  
地金・コインの買取から販売まで資産用積立商品などを展開
- 貴金属宝飾品**  
メタルジュエリー、宝飾品、ブライダルジュエリー、工芸品

### 究極のコストダウン「リサイクル」

高価な貴金属は、有効活用してこそ価値を生み出します。  
ある貴金属製品が寿命を迎えて再び同じ製品を使おうとする場合、通常は貴金属を市場で売却して受け渡すか、物理的にやりとりできる状態に加工してから受け渡さなければなりません。前者では、市場を流通させるコスト(売値と買値の差:スプレッド)が発生し、後者では、加工・流通のためのリードタイムが発生してしまいます。  
田中貴金属グループでは、包括的体制によるワンストップサービスにより、市場での売買を介することなく、地金の調達から加工・製造、販売、リサイクルまでを一貫して行うことにより、お客様のリードタイム短縮と地金調達コストの低減を実現します。また、使用済み産業用製品のほか、製造段階で発生する端材や装置について地金のリサイクルも可能であり、これらは同時に究極のコストダウンとも言えます。

### トータルソリューション

「地金調達」「加工・製造」「販売」「リサイクル」を通じて、貴金属を扱うどの部分でもワンストップで対応いたします。創業以来培った調達ルートや、高い技術力と充実した研究体制、製品開発力、国内外の拠点を結ぶネットワークなどをもって、お客様の課題解決や改善を全力でサポートします。



# さまざまな可能性を拓く

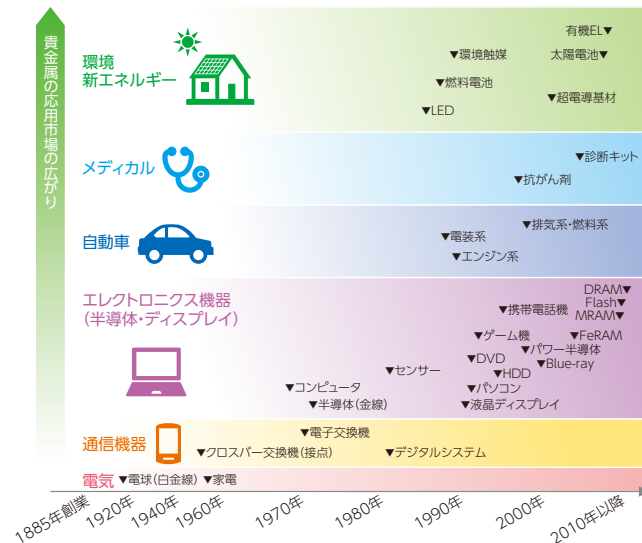
田中貴金属グループは、創造性に富む技術力で貴金属の可能性を追究し続けてきました。そして貴金属の優れた特性を幅広い産業分野に活かすことで、持続可能な未来をつくるためのさまざまな技術革新を支えています。



## ■ 貴金属の可能性

白金、金、銀、パラジウム、ロジウム、イリジウム、ルテニウム、オスミウムの8元素からなる貴金属は、薬品に強い、錆びない、電気をよく通す、よく延びる、熱に強い、触媒作用を持つなど多くの特性を兼ね備え、無限の可能性を持つ素材です。田中貴金属グループは「貴金属を究める」をスローガンに、長年磨いてきた技術で、貴金属の特性を活かした製品の研究開発と安定供給、リサイクルに取り組んできました。貴金属の可能性を引き出す事業活動を通じて環境問題やエネルギー対策などに有効な製品の開発と提供に挑戦し、ゆとりある豊かな社会の実現と美しい地球の未来に貢献していきます。

## ● 貴金属材料の応用市場の広がり



## ■ 産業と技術革新

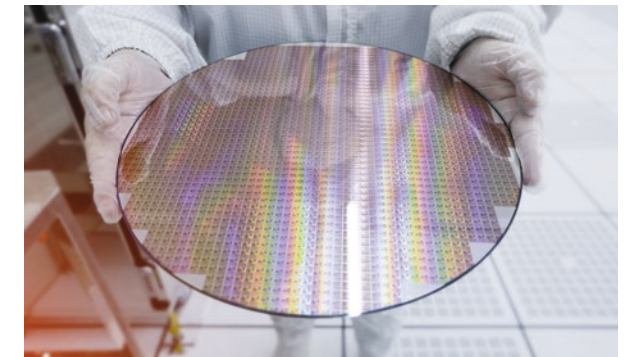
### ○ CVD/ALD※用貴金属プリカーサー(前駆体)

スマートデバイスが普及し、情報化が進む昨今において、半導体性能の向上とコスト低減への取り組みは絶えず求められてきました。最先端半導体の製品化において、新たなプロセスや優れた新材料を見出すことは、これらのイノベーションに不可欠です。特に、半導体デバイスの微細化において新たな材料開発は急務の課題とされ、貴金属を用いたプロセスも提唱されるようになってきました。

田中貴金属工業(株)では、化学的・電氣的に優れた特性を示すルテニウムをはじめ、白金、イリジウムなどの薄膜形成に用いられる「CVD/ALD用貴金属プリカーサー」の開発に取り組んでいます。先端半導体の高性能化に貢献する貴金属プリカーサーの設計・開発と当社独自のリサイクル技

術によるコスト低減により、半導体デバイスを通じた情報化社会への技術革新に貢献します。

※CVD/ALD:Chemical Vapor Deposition(化学気相成長法)/Atomic Layer Deposition(原子層堆積法)



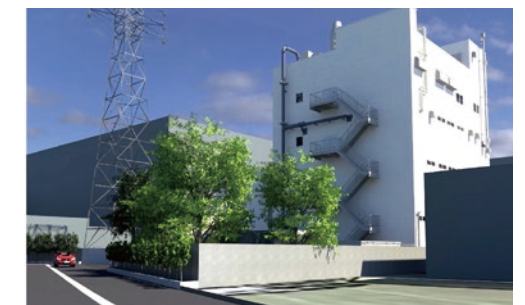
### ○ FC(燃料電池)

水素社会の構築に向けて、燃料電池の普及が世界的に進んでいます。田中貴金属工業(株)は長年燃料電池の電極触媒の開発に取り組んでおり、固体高分子型燃料電池(PEFC)用電極触媒で世界トップクラスの出荷量を誇ります。

小型・軽量かつ高出力なPEFCは、燃料電池自動車や家庭用燃料電池「エネファーム」などに用いられており、需要増が見込まれています。そこで2019年1月、電極触媒の研究開発・製造拠点、FC触媒開発センターの生産能力を大幅に増強しました。

また、同年2月から3月に東京で開催された世界最大規模の燃料電池の展示会「FC EXPO2019」にて、燃料電池

用電極触媒のほか、水素製造に必要な水電解用電極触媒、高純度な水素精製を実現するパラジウム水素透過膜などを展示しました。製品の研究開発と安定供給に努め、水素社会の実現に貢献します。



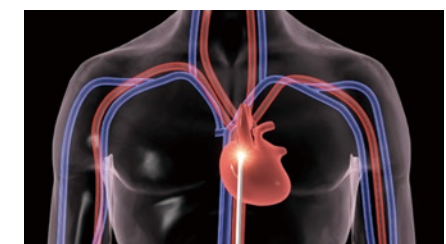
2019年1月増設したFC触媒開発センター

### ○ 身体に優しい手術・治療

医療分野では身体への負担が少ない治療が求められる中、麻酔や皮膚の切開が最小限で済むカテーテル治療の技術が進化しています。カテーテル治療に用いるガイドワイヤーやステントなどの器具とそれらの体内での位置を示すマーカーは、体内に留置した際の安全性やX線透視下での視認性の高さといった性能が必須で、その材料には白金や金、イリジウムなどの貴金属が適しているとされています。

田中貴金属工業(株)は貴金属における高純度な品質と微細な加工技術を活かして、こうした医療用体内留置デバイス向け白金材料の開発に取り組んでいます。国内の臨床

現場のニーズに対する確かつすみやかに対応可能な製品の実用化に向けて、東海大学医学部との産学連携による開発を進めています。医療分野における貴金属素材開発を通じて、QOL(quality of life:生活の質)の向上など、人々の健康と福祉の増進に寄与したいと考えています。



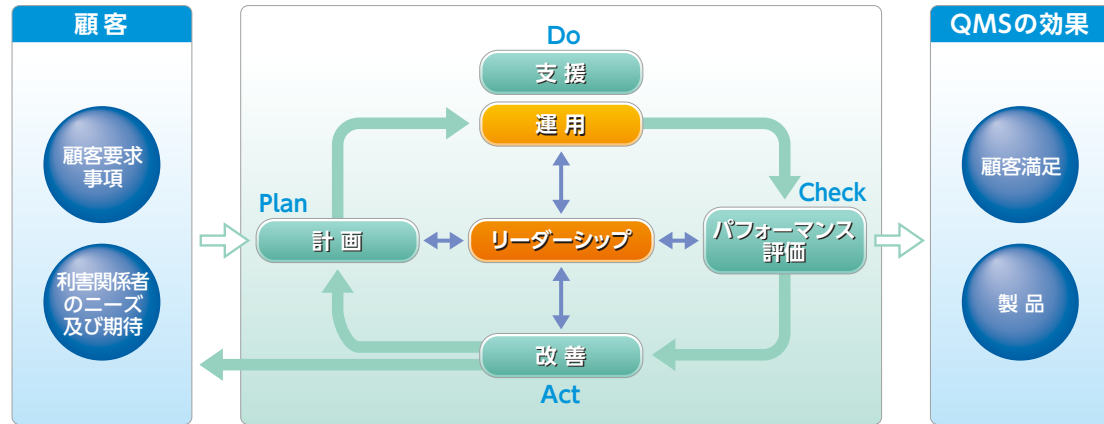
# TANAKAの品質

「良い物」をお客様にお届けすることが、田中貴金属グループの信条です。製品自体の品質はもちろん、製品をつくる過程で人権、環境、安全・衛生、倫理などにも配慮しています。

## 品質マネジメントシステムによる品質管理活動

田中貴金属グループの全工場ではISO9001に基づく品質マネジメントシステム(QMS)を構築し運用しています。お客様からの多様な要求品質に対して迅速に対応し、満足いただける安心で安全な製品を継続的に提供するため、QMSの有効性をレビューするとともに、自動車業界向けQMS IATF16949の要求事項を反映させるなど、システムの改善に取り組んでいます。

### 品質マネジメントシステムの体系図



## 公認審査会社(グッド・デリバリー・レフリー)

田中貴金属工業(株)は、公認溶解業者を審査する公認審査会社として、世界で流通する貴金属の品質保証に貢献しています。LBMA(ロンドン地金市場協会)より金・銀の、LPPM(ロンドン・プラチナ・パラジウム市場協会)よりパラジウム・プラチナの公認審査会社に、それぞれ任命されています。



## 顧客からの評価

お客様の生産活動を支える田中貴金属グループの取り組みは、さまざまなお客様から表彰などの形で評価をいただいています。

### 2018年度 お客様からの主な表彰

カンパニー	お客様名	受賞名	表彰を受けた理由
AuAg	ON Semiconductor	FE Perfect Quality Award	優れた品質
AuAg	パナソニック株式会社	規制物質代替化(技術)特別賞	Cdフリー化とコストダウンを実現、商品の付加価値を高めることに貢献
AuAg	太陽誘電株式会社	特別賞	ローラ/軸電極における価格・品質対応、技術提案の評価
AuAg	株式会社明電舎	品質部門 優秀賞	品質活動を推進して4期連続不良0件を達成
化学回収	日本特殊陶業株式会社	【材料関連部門】優秀賞	総合的な評価(マネジメント、技術力、品質、コスト貢献、納期)
PGM	日本電気硝子株式会社	2018年度優秀パートナー賞	中国改鑄加工の実現、TKCC立ち上げ
PGM	Western Digital	2018 Best in Class Award	総合的な評価(納期・品質・価格)
PGM	富士電機株式会社	2018年度パートナー	安定した品質(5年連続)
半導体	ASE Group	ベストサプライヤー賞	金ワイヤーのQCDに対する最高評価
半導体	Mini - Circuits Technologies Malaysia Sdn. Bhd	優秀サプライヤー賞	卓越した品質性能
半導体	株式会社ジャパンセミコンダクター	VA貢献賞	EEJAめっき液のリサイクル加工提案
新事業	応用物理学会	第6回 Exhibition Award 優秀賞	学会参加者による投票の結果

## お客様に満足いただけるCSR評価の実現

### ○ CSR評価への対応

田中貴金属グループでは、人権、環境、安全・衛生、倫理などを含めたCSRに配慮した事業活動を行っており、グローバルなお客様からの要望や社会からの期待に応えるため、「RBA行動規範<sup>※1</sup>」の趣旨に沿った「田中貴金属グループ行動憲章・行動規範」を策定しています。2018年度は、複数の国内工場、海外工場がRBA認定第三者機関による監査や、顧客による監査を受け是正措置を実施しました。また、お取引先様約200社に対して「RBA行動規範」遵守をお願いするとともに、遵守状況の調査とフィードバックを継続して実施しています。

サプライチェーンCSR評価機関EcoVadis<sup>※2</sup>による、環境、社会、倫理、サプライチェーン評価では、2018年も継続してシルバー認証を取得しました。



EcoVadis認証マーク

※1 RBA行動規範: RBA(Responsible Business Alliance責任ある企業同盟)が制定した行動規範  
 ※2 EcoVadis: 世界150か国190業種5万団体以上が登録しているCSR評価プラットフォーム。ゴールド、シルバー、ブロンズ、評価なしの4段階に評価される。

### ○責任ある鉱物調達への取り組み

田中貴金属工業(株)は、原材料調達における金、タンタル、タングステン、すずをはじめとする鉱物に係る取引上のリスク管理を行い、人権侵害、テロ、マネーロンダリング、不正取引、非人道的行為や武装勢力に関与する調達を回避するため、「責任ある鉱物管理方針」を制定し、責任ある原材料調達を推進しています。金に係る取引については、LBMAレスポンシブル・ゴールドガイダンスに基づく管理を行い、第三者機関による監査・認証を取得し、2014年より毎年更新しています。銀についても、2019年5月に第三者機関による監査を受け認証取得予定です。

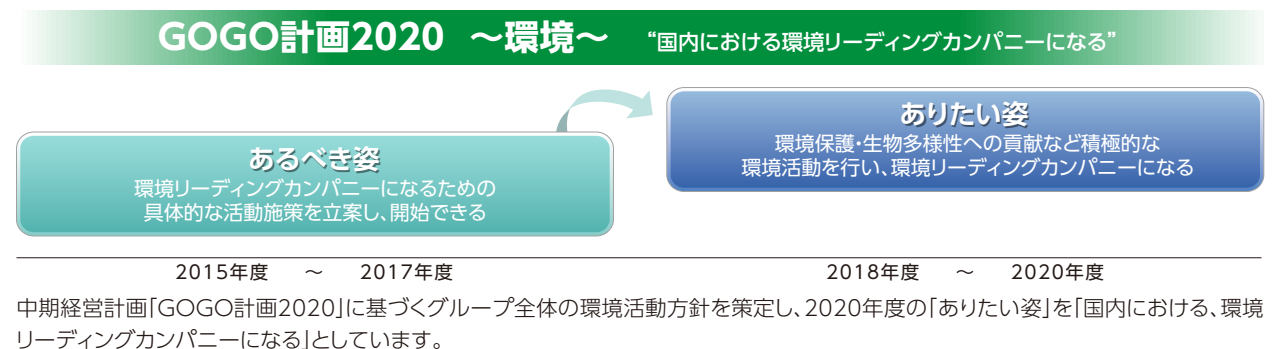


LBMA レスポンシブル・ゴールド認証

「責任ある鉱物管理方針」  
[http://www.tanaka.co.jp/sourcing\\_policy/](http://www.tanaka.co.jp/sourcing_policy/)

# 地球環境を守る

美しい地球を未来へ継承することは、国際社会共通の課題であり、大きな挑戦でもあります。田中貴金属グループは、事業活動による環境への負荷を最小化するために、あらゆる可能性を追求しています。



## 環境マネジメントシステム

国内全生産拠点で環境マネジメントに関する「ISO 14001」の認証を取得し、PDCAサイクルを回して、継続的な環境保全活動を実施しています。特に、CO<sub>2</sub>排出量削減（地球温暖化の防止）、産業廃棄物排出量削減（循環型社会の形成）、環境異常撲滅活動（汚染の予防）については、グループ全体の目標を定め積極的に取り組んでいます。

環境保全活動を着実かつ円滑に推進するために、各工場・事業所長で構成される中央環境委員会を最上位としたグループ組織体制を構築しています。また、SHE\*推進室長会議、環境管理者で構成される環境専門部会を定期的に開催し、情報共有および積極的な意見交換を重ねています。

\*SHEは、「安全、衛生、環境」の略です。

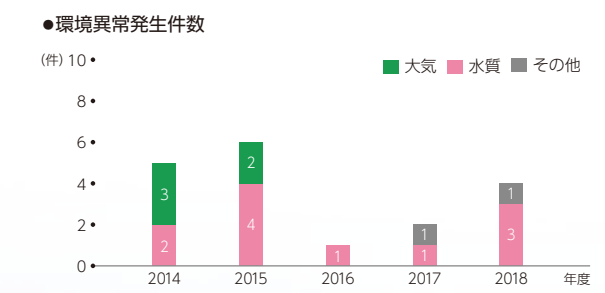
### ●環境保全推進体制



## 環境異常撲滅活動

大気汚染、水質汚濁、土壌汚染などを未然に防止するため、法規制よりもさらに厳しい社内管理値を設定しています。特に、大気および水質などについては、原則として法規制値などの2分の1を社内管理値としています。

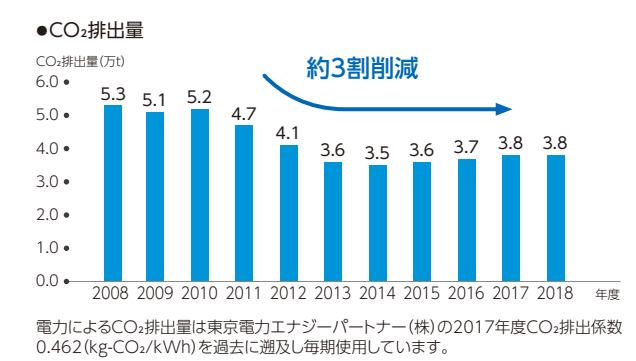
「環境異常（社内管理値超過など）」発生時には迅速に対応するとともに、原因の把握と再発防止に努めています。社内では「環境異常速報」による情報伝達を、関係行政当局へは「通報・届出基準」に基づく報告を行っています。2018年度は、環境異常が4件発生しましたが、即時、対策を実施し再発防止に努めています。



## CO<sub>2</sub>排出量削減の取り組み

地球温暖化防止に貢献するため、生産活動におけるCO<sub>2</sub>排出量の削減に取り組んでいます。2011年3月に発生した東日本大震災後に全社を挙げて省エネ活動に注力した結果、過去10年間でCO<sub>2</sub>排出量を約3割削減しています。

しかしながら、2018年度のCO<sub>2</sub>排出量は2017年度から1.4%増の3.8万トンとなりました。近年は事業活動が活発なためエネルギー使用量が微増傾向にあります。今後もさまざまな機器の高効率化や運用改善等の省エネ活動を強化し、さらなるCO<sub>2</sub>排出量削減を目指します。



## TOPICS 富岡工場が「平成30年度省エネ大賞」で審査委員会特別賞を受賞!

製造工場において多くの動力比を占めるコンプレッサの動力削減に取り組み、顕著な成果をあげたことが評価されました。

「省エネ大賞」は、優れた省エネ取組事例や省エネルギー性に優れた製品等を表彰することで、わが国全体の省エネ意識の拡大、省エネ製品の普及などによる省エネ型社会の構築に寄与することを目的とした表彰制度です。



## TANAKA NOW

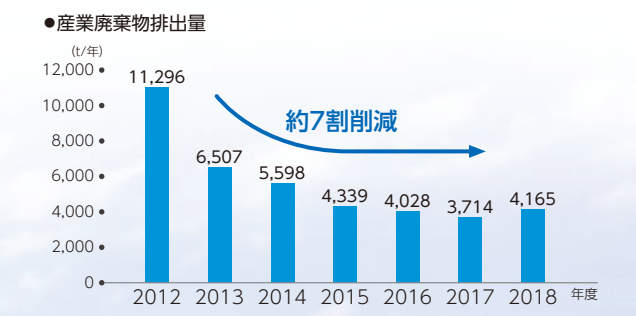
富岡工場は全社で最も多くのエネルギーを使用する工場であり、中央環境方針に従い省エネ活動を長年にわたり継続してきました。工場内の省エネ委員会では意見交換しやすい環境づくりを意識し、停滞しない活動を目指しています。こうした全員参加の省エネ改善活動が評価され、「平成30年度省エネ大賞」において審査委員会特別賞を受賞しました。担当者としてこれまでご指導いただいた方々へ感謝するとともに、今後に向けても大きな励みとなりました。引き続き地道な活動を継続し、省エネ活動に取り組んでいきます。



田中貴金属工業株式会社 富岡工場 生産技術セクションリーダー 木村 真一

## 産業廃棄物排出量削減の取り組み

貴金属の溶解や精製、および貴金属廃液からの貴金属の回収の際に、酸・アルカリ性廃液が多く発生します。分別を徹底し、3R(リデュース、リユース、リサイクル)を推進した結果、過去6年間で産業廃棄物排出量を約7割削減することができました。一方で、2018年度は事業活動が活発だった影響もあり廃棄物排出量は前年度比12%増加しました。事業拡大に伴う廃棄物の発生を抑制できるよう、今後もさらなる対策を進めます。



# 地球環境を守る



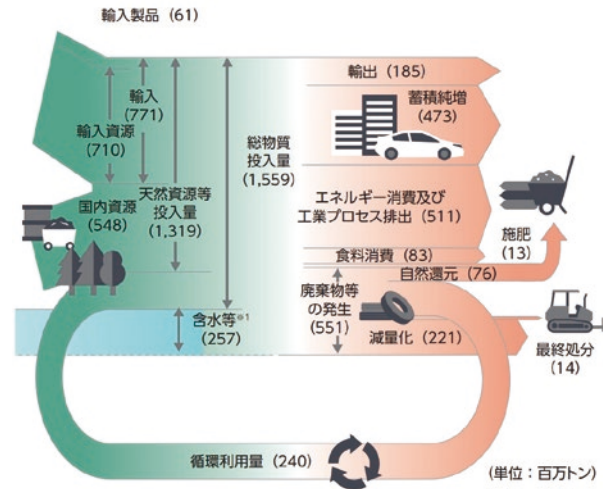
## 貴金属の有効利用

### 循環型社会の構築に向けた日本政府の動き

2003年3月に閣議決定された「循環型社会形成推進基本計画」において、日本全体の「物質フロー図」と、「資源生産性」「循環利用率」「最終処分量」の3つの指標が設定されました。

一方、2018年6月に「環境報告ガイドライン2018年版」が公表されました。今回の改訂では、物質フロー全体を網羅するのではなく、環境に与える重要な影響を事業者が自ら判断し開示するよう求められています。

### ●日本の物質フロー図(2016年度)

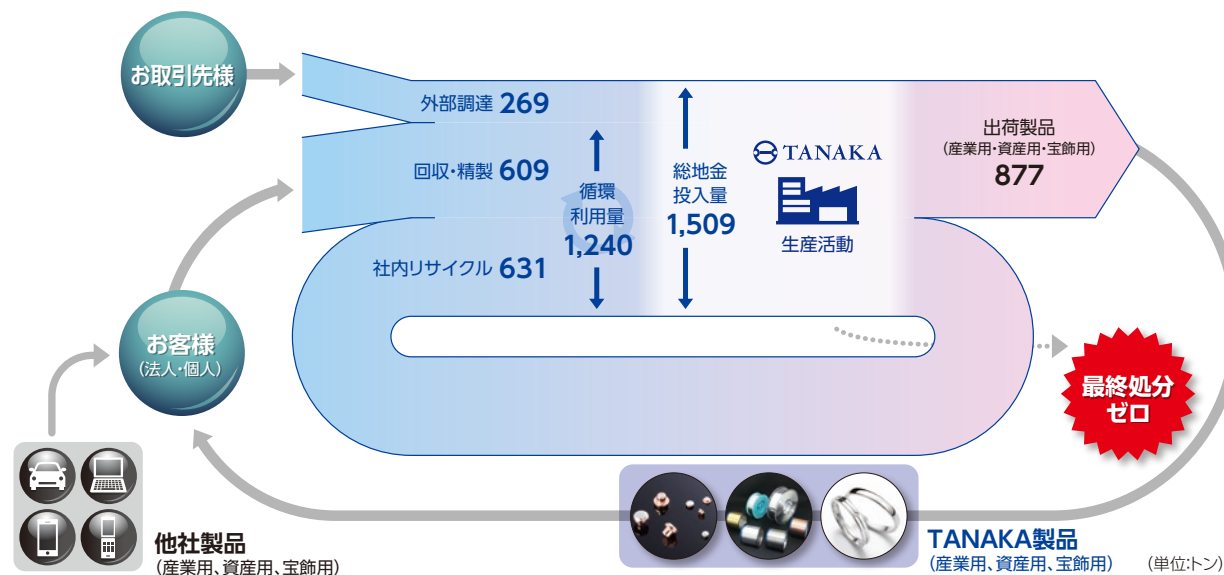


出典:令和元年版循環型社会白書

### ■新たな環境指標を策定

そこで、田中貴金属グループでは新たな環境指標を策定しました。環境報告ガイドラインの改訂を受けて、環境に与える重要な影響を「貴金属地金の投入量および循環利用量」と定義し、国の循環基本計画と合わせた地金フロー図と2つの指標を構築しました。

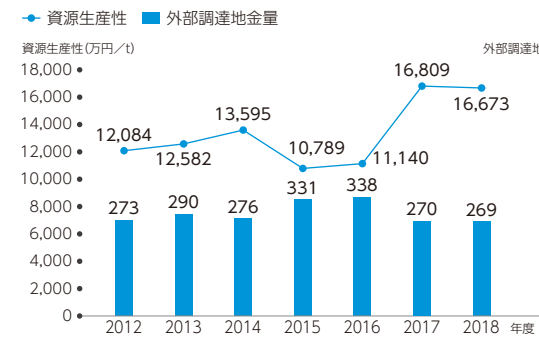
### ●田中貴金属グループ地金フロー図(2018年度)



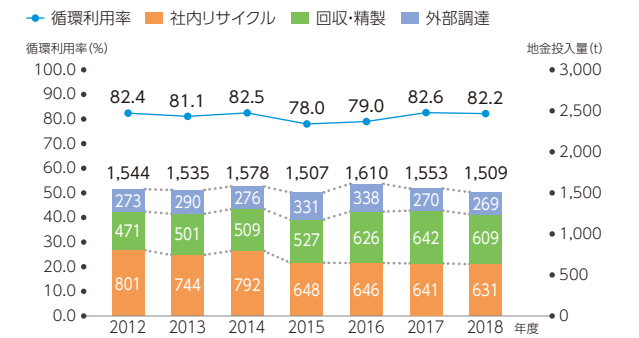
●貴金属の種類…白金、金、銀、パラジウムなど。  
 ●外部調達…商社や鉱山会社など、市場から購入した地金。  
 ●回収・精製…お客様からお持ちいただいた回収物より精製した地金。  
 ●社内リサイクル…製造工程において発生した、製品とならなかった部分の地金。リターン材。  
 ●出荷製品…製品として出荷した地金。

	国の循環基本計画指標	田中貴金属グループ環境指標
①資源生産性	GDP/天然資源等投入量	売上総利益/外部調達量
②循環利用率	循環利用量/総物質投入量	循環利用量/総地金投入量
③最終処分量	埋め立て廃棄物量	—

### ●資源生産性



### ●循環利用率



「資源生産性」は、外部調達地金1トン当たりの利益であり、環境視点での「稼ぐ力」と言えます。2017年度に過去最高となり、2018年度も横ばいでした。「循環利用率」は、総地金投入量に占める自社でリサイクルした地金量であり、約8割で推移しています。なお、貴金属地金を1gも廃棄していませんので、国の「最終処分量」にあたる指標は立てていません。

今後、これらの環境指標を改善することで、循環型社会の構築とサーキュラーエコノミー(※)の実現に貢献します。

(※)循環型社会の実現と経済活動を両立させる概念。廃棄物や事業活動のムダから富を生み出すことが求められる。

## 生物多様性保全の取り組み

### ■NPOの支援

田中貴金属グループでは、2019年度より生物多様性保全の取り組みとして、NPO法人鶴見川流域ネットワーク(神奈川県横浜市、岸由二代表)との連携を開始しました。同NPOが2019年4月より開始した「多自然かわづくり花さく鶴見川プロジェクト」を支援しています。



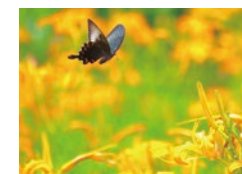
ノカンゾウを育成し、各地に転植



ノカンゾウ

同プロジェクトでは、花粉症の原因となる外来種の「ネズミホソムギ」等に覆われてしまい、除草などの定期的な作業が必要な場所に、代替可能でかつ軽度な管理で維持できる魅力的な在来植物(ハナウド、ヤブカンゾウ、ノカンゾウ、ハマカンゾウ、など)を転植していき、安全で生物多様性豊かな多自然ビオトープを創出することを目指しています。

ハナウドやカンゾウ類は、7月から9月にかけて美しい花を咲かせるとともに、キアゲハ、ジャコウアゲハなどのさまざまなアゲハ類が訪れて吸蜜します。



ハマカンゾウとカラスアゲハ

今後は従業員の自宅でノカンゾウを育成し転植するといった参加型企画も検討してまいります。

写真提供:NPO法人鶴見川流域ネットワーク

### ■エコツアーによる従業員と家族の意識啓発

生物多様性保全の専門家であるNPOを経営的に支援する一方で、従業員の生物多様性保全意識の啓発を目的としてエコツアーを開始しました。

第一弾として、2019年5月25日(土)に小網代の森(神奈川県三浦市)の散策を行いました。



当日は従業員および家族の計25名が参加し、森や干潟の散策、チゴガニの求愛ダンスやホテルの観察を行いました。また、高波や盗掘の被害によって絶滅が危惧されているハマカンゾウの保全作業も行いました。



従業員と家族でハマカンゾウを移植



ハマカンゾウ

今後も定期的にエコツアーを開催し、従業員および家族の環境意識啓発に取り組めます。

写真提供:NPO法人小網代野外活動調整会議



# 地域・社会への貢献

田中貴金属グループは、事業活動を通じてご縁が生まれる地域や国がより健やかで豊かになるように、自らができる貢献を目指しています。会社としての支援、従業員によるボランティアの両面から、継続性を大切にする活動を各地で展開しています。

## 東京2020オフィシャルサポーター

TANAKAホールディングス(株)は、公益財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会と東京2020スポンサーシッププログラムの「貴金属・宝飾品」カテゴリーにおける「東京2020オフィシャルサポーター」契約を締結しました。



貴金属・宝飾品

## 東京都スポーツ推進企業・スポーツエールカンパニーの認定

TANAKAホールディングス(株)は、各種スポーツ大会への協賛のほか、従業員参加による健康促進大会などスポーツを通じた従業員同士の交流や健康づくりを推進しています。

また、2012年に日本障がい者スポーツ協会(JPSA)のオフィシャルパートナーとなり、2017年からは日本ブラインドサッカー協会(JBFA)とブラインドサッカー女子日本代表への協賛も開始しました。このような活動が評価され、平成27年度より4年連続で東京都より「東京都スポーツ推進企業」に、平成29年度より2年連続でスポーツ庁より「スポーツエールカンパニー」に、それぞれ認定されています。



## 障がい者スポーツへの支援・参加

田中貴金属は日本障がい者スポーツ協会主催のジャパンパラ競技大会やブラインドサッカー国内・国際大会への応援観戦・ボランティア活動を行っています。さまざまな活動への参加人数は延べ人数、実数ともに確実に増加しています。さらなる活動の活性化を目指して、2018年度に新たな制度として各工場・事業所からパラスポーツの啓発活動を継続的に行う「パラサポーター」を募り、まず2019年2月にゴールボールの応援観戦や体験会などにお揃いのジャンパーを身につけて参加しました。今後も2019年10月に予定されている全国障害者スポーツ大会の応援観戦やボランティア活動への参加などさまざまな機会を通して、障がい者スポーツへのさらなる理解・深耕を図ります。



2019年2月  
ゴールボールの  
応援観戦  
(パラサポーター)

## 「高専ロボコン」協賛

アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト(高専ロボコン)は、高専の学生たちが既成概念にとらわれず「自らの頭で考え、自らの手でロボットを作る」ことでモノ造りの面白さを体験するイベントです。全国57校62キャンパスの高専生が8地区で予選を戦い、勝ち残った25チームが東京での全国大会に進みます。

田中貴金属グループは、若き技術者のモノ造りを応援するために、2012年から「高専ロボコン」に協賛しています。



2018年11月高専ロボコン全国大会

## 主な活動

### 【寄付・募金活動】

社内フリーマーケットを通じて、MIDS(知的障害者基金)に寄付しました。

田中エレクトロニクス・シンガポール Pte.Ltd. 参加人数:200名  
2018年7月

公益財団法人日本対がん協会「ほほえみ基金」に  
ピンクリボン商品の売上金の一部を寄付しました。

田中貴金属ジュエリー(株) 2018年4月~2019年3月



K18ピンクゴールド  
ピンクサファイヤ  
タイニーピン

### 【スポーツ振興活動】

「東京マラソン2019」において、同大会マラソン男女上位3名と2016大会から国際化された車いすマラソン男女の上位3名に進呈される金メダル、銀メダル、銅メダルを男女各2個ずつ、合計12個提供しました。

TANAKAホールディングス(株) 2019年3月

「ペナン・ブリッジ国際マラソン大会」第1給水所の企業ボランティアスタッフとして活動しました。

田中エレクトロニクス・マレーシア Sdn.Bhd. 参加人数:20名  
2018年11月

### 寄付・募金活動



田中エレクトロニクス・  
シンガポールPte.Ltd.

### スポーツ振興活動



東京マラソン2019  
金、銀、銅メダル

### 【人財育成・文化芸術の発展】

東海大学付属高輪台高等学校中等部にて、貴金属の特性のほか、貴金属が生活のどのようなところで活躍しているかを知らせてもらうことを目的に出張授業を実施しました。

TANAKAホールディングス(株)本社、田中貴金属工業(株)湘南工場  
2018年11月

### 【地域清掃活動】

各工場・事業所では工場および周辺などの清掃活動を定期的に行っています。

田中貴金属工業(株)各工場・事業所、田中電子工業(株)佐賀本社工場、  
日本エレクトロプレイング・エンジニアーズ(株)、  
田中貴金属ジュエリー(株)銀座本店、田中電子(杭州)有限公司

### 【献血活動】

各工場・事業所では献血活動を定期的に行っています。

田中貴金属工業(株)伊勢原工場、平塚工場、湘南工場、  
田中電子工業(株)佐賀本社工場、  
田中エレクトロニクス・シンガポール Pte.Ltd.、  
田中電子(杭州)有限公司、台湾田中電子股份有限公司

### 人財育成・文化芸術の発展



出張授業の様子

### 地域清掃活動



田中電子(杭州)有限公司

その他の活動はホームページから <https://www.tanaka.co.jp/about/csr/communication.html>

## 田中貴金属記念財団

### ○奨学金制度

2018年度より学術、技術ならびに社会経済の発展に寄与することを目的とした「奨学金制度」を開始しました。対象は大学理工系学部、大学院理工系研究科に在学し、大学生は23歳以下、大学院生は30歳以下の方で、支給期間は1年間です。初年度は、東北大学限定で3名の学生を対象に給付しました。

### ○貴金属に関わる研究助成金

本助成金制度は、貴金属が貢献する新しい技術や研究・開発を支援するため、1999年度から毎年実施しています。20回目となる今回は、合計188件の応募があり、24件の研究に対し、総額1,620万円の研究助成金を給付しました。

「体内局所pH測定を実現する酸化イリジウム微小電極の開発」

ゴールド賞 200万円 東京医科歯科大学 助教 合田 達郎 様

「CoPt系ナノコンポジット材料を用いたアナログナノスピメモリ素子の創製と脳型情報処理応用」

ゴールド賞 200万円 東北大学 准教授 深見 俊輔 様

### ○愛の絆 桜の植樹135

東日本大震災の東北復興支援ボランティアとして2013年に開始した「愛の絆 桜の植樹135」は6年目を迎え、「従業員の募金」から「ダブル支援」(被災地物産品の購入)へと活動の形を変えることにしました。ダブル支援は、被災地物産品を従業員が購入することでまず一つの支援を行い、さらに購入額と同額を田中貴金属財団が寄付することにより二つ目の支援も行います。

今回の植樹により、目標である「創立135年を迎える2020年までに135本の植樹」を達成することができました。また、「避難の目安となる津波最高到達地点に桜並木をつくる」「記憶の伝承」「被災された方々の心の安らぎ」から「桜のメンテナンス」へと支援の幅を広げることができました。



桜の植樹

# 一人ひとりの活躍

多様性を増す従業員の一人ひとりが輝ける職場づくりは、田中貴金属グループの将来にとって欠かせません。さまざまな切り口に目を向けながら、意欲的に取り組んでいます。

## 働き方改革・休み方改革の対応

田中貴金属グループでは、従業員がいきいきと働ける職場環境を目指し、働き方改革に取り組んでいます。

### ○ 年次有給休暇

2019年4月より施行された「働き方改革関連法」における「年次有給休暇5日以上の取得」を一年前倒しし、2018年度からグループ全体で推進しました。

### ○ 長時間労働の削減

長時間労働の削減のため、ノー残業デーなどの施策を実施しています。部署ごとに毎月の残業時間の上限を設定することで長時間労働の削減に努めています。

### ○ 子育てと仕事の両立支援

妊娠した女性従業員が通勤途中の交通機関の混雑を避けるため妊娠時短時間勤務制度を設けています。従業員の子育て支援のため、育児休暇は最長で生後2歳まで取得でき、短時間勤務は最長で小学2年生の4月まで適用を受けることができます。また、子の看護休暇は、子女1人につき年5日、2人以上の場合は年10日、小学2年生の4月まで取得できます。

### ○ 介護と仕事の両立支援

従業員による介護を支援するため、要介護状態にある家族1人につき365日の介護休暇を取得することができます。また、介護短時間勤務は要介護状態にある家族1人につき最長3年間適用を受けることができます。

## 障がい者雇用

障がい者雇用を強化するために、障がい者採用イベントへの定期的な参加のほか、各工場・事業所では地域の養護学校から職業実習の受入を積極的に行なっています。また、採用した方には職場適用援助制度（ジョブコーチ制度）を活用して就労の定着を図っています。

国内		2018	2017
従業員数	男性	1,937名	1,942名
従業員数	女性	837名	825名
女性管理職		70名	68名
障がい者雇用率		1.52%	1.86%
年次有給休暇平均取得日数		11.5日	8.9日
平均残業時間		10.37時間	19.36時間
平均勤続年数	男性	13.3年	13.6年
平均勤続年数	女性	11.4年	11.2年
妊娠時短時間勤務		3名	1名
育児休暇	男性	5名	3名
育児休暇	女性	55名	41名
育児短時間勤務	男性	3名	1名
育児短時間勤務	女性	74名	69名



仕事と介護の両立支援

### トモニン

当グループは仕事と介護を両立できる職場環境の整備に取り組んでいます。



田中貴金属工業株式会社 新事業カンパニー 技術開発統括部 開発管理部 白石 康次郎

## TANAKA NOW

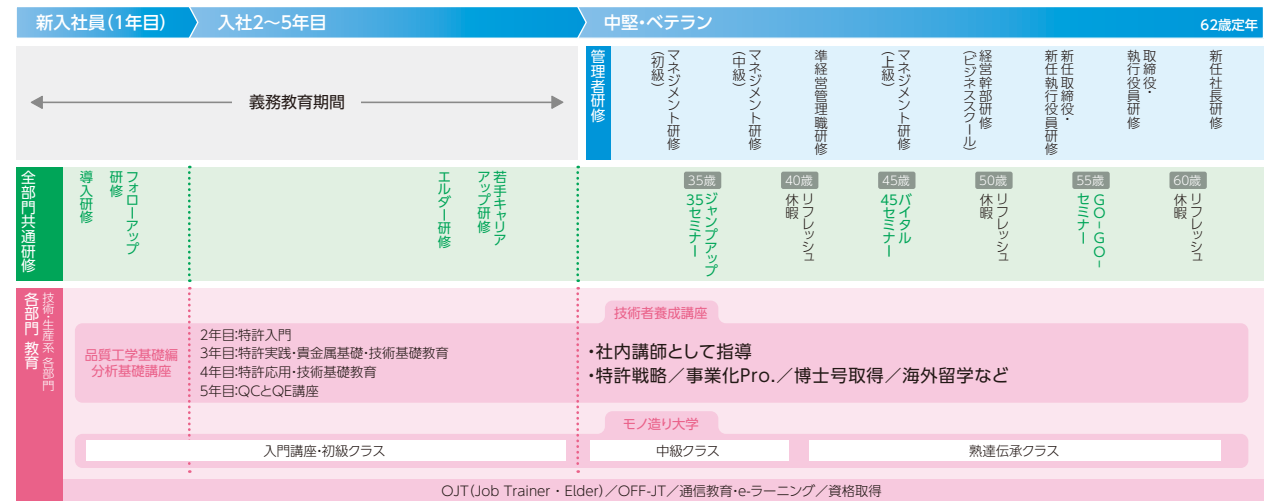
娘が産まれて8ヶ月を過ぎてから1歳の誕生日までの約4ヶ月間育児休暇を取得しました。当時、休暇を急遽取得することになりご理解ご協力をいただいた関係者の方々に、この場を借りて感謝申し上げます。休暇中は毎日のオムツ替え、離乳食作りなどの育児や掃除、洗濯などの家事を行いました。普段の妻の大変さが身に沁みるとともに、娘の日々の成長を目の当たりにでき、かけがえのない時間を過ごすことができました。育児を通じて忍耐力や寛容さが増したと感じます。今後の仕事に活かしていきたいと思えます。

## 人財育成

田中貴金属グループでは、「気づかせる教育、業務に結びつく人財教育」をモットーに、従業員一人ひとりの成長が組織全体の活性化につながるよう体系的・計画的な人財育成を行っています。なお、「社員は財産である」との考えのもと、社内では「人財」と表記しています。

教育プログラムに沿って新入社員や中堅・ベテランを対象とした「新入社員導入研修」「ジャンプアップ35セミナー」など、管理職を対象とした「マネジメント研修」「準経営管理職研修」など、全従業員を対象とした通信教育などを実施しています。また、貴金属の知識・技術向上のための「貴金属の基礎講座」や「QCとQE講座」も実施しています。

### ●教育プログラム



## CSR通信

CSR活動の社内コミュニケーションツールとして2012年4月よりCSR通信を毎日発行しています。2019年6月には1700号を超えました。ISO26000の中核主題に沿った「組織統治」「人権」「環境」「労働慣行」「コミュニティへの参画」などのテーマごとにCSR推進部の担当者が分担して作成しています。CSR推進部から各工場・事業所の各部門に毎日メール配信し、各部門では職場の掲示板や食堂などに掲示しています。2018年にはCSR活動の啓発教育などへ利用できるように、発行済みのCSR通信から抜粋して1冊

にまとめたCSR通信活用ブックを製作し、各部門へ配付しました。今後は500号発行毎に追加・更新を行います。



CSR通信活用ブック



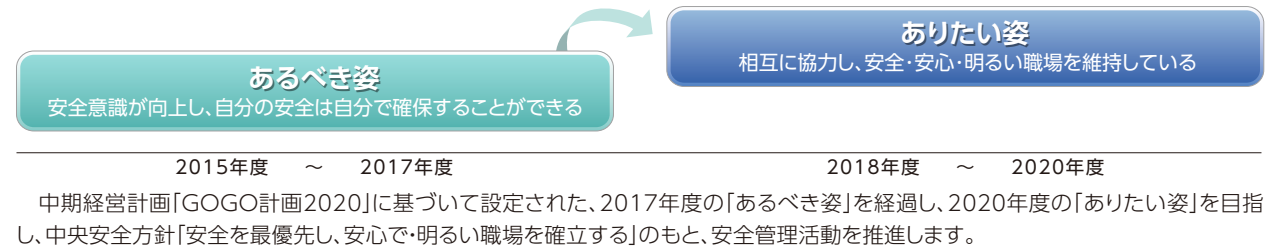
CSR通信を食堂などに掲示



# より安全な職場環境づくり

安全で、安心して働ける職場づくりは、企業にとって最も重要な、かつ奥深い課題です。田中貴金属グループは、お互いに協力できる関係づくりを大切にしながら、従業員の安全と健康の確保に取り組んでいます。

## GOGO計画2020 ～安全～ “安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する”



### 安全活動

2020年度のありたい姿「相互に協力し、安全・安心・明るい職場を維持している」に向けて年度方針「安全を最優先し、安心で・明るい職場を確立する」のもと、各工場・事業所では安全管理者を中心に日々安全活動を行っています。2018年度は過去の災害事例を元に各工場・事業所ごとに重点実施テーマを定め、安全対策重点実施活動を行いました。機械加工系では「挟まれ・巻き込まれ」や「重量物取扱い」、化学系では「薬傷・火傷」を重点項目とし、さらに「転倒防止」を共通項目としました。危険源の洗い出し、対策の立案・実施を活動計画に基づいて実行し、各工場・事業所の安全管理者およびCSR推進部により実施状況を確認しました。本活動は2019年度も継続して実施します。



### 衛生活動(健康経営)

従業員が心身ともに健康でいきいきと働ける環境の整備とその取り組みを継続していくために「田中貴金属グループ健康宣言」を発信しました。疾病の予防対策として「健康チャレンジ」を毎年実施して生活習慣改善の気づきを得る機会としています。また、疾病の早期発見となる定期健

康診断の受診促進を行い、受診率100%を達成しています。毎年5月に行っている「禁煙キャンペーン」では喫煙者の健康面ばかりでなく受動喫煙の機会を減らすことも盛り込んだ活動を行っています。

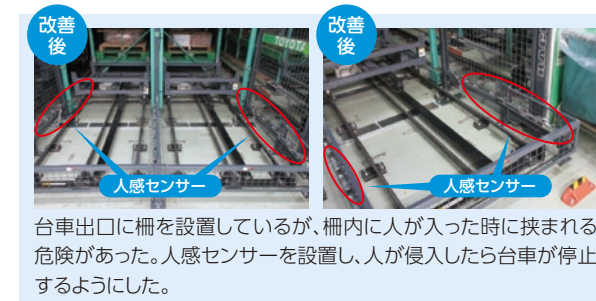
### 安全対策についての具体的改善事例

#### ○ AuAgカンパニー平塚工場

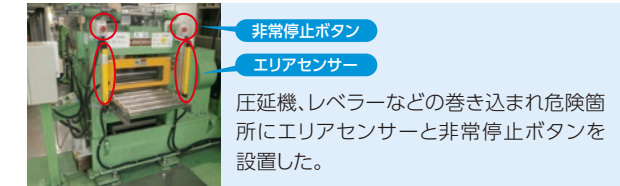
安全重点施策として動画を取り入れた リスクアセスメントを実施しています。役職者と作業者が動画を撮りながら、危険箇所のリスク抽出～評価～対策(ハード/ソフト)までを行いリスクアセスメント(RA)表にまとめ、安全衛生委員会では動画を再生し報告します。各委員からの意見や提言を取り入れ「設備、機械の安全化」「作業手順の明確化」につなげています。



#### ○ AuAgカンパニー岩手工場

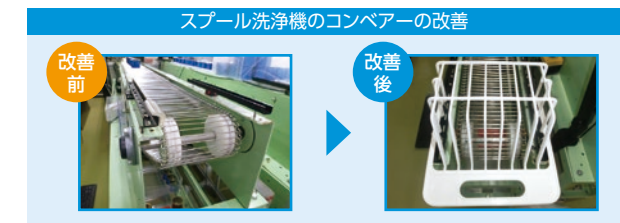


#### ○ PGMカンパニー伊勢原工場

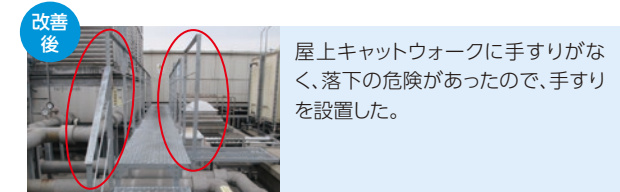
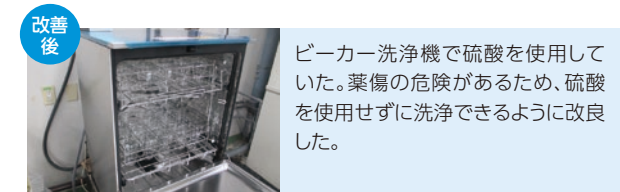


#### ○ 半導体カンパニー田中電子工業(株)佐賀工場

伸線機の繰り出し部分で、供給材SUSリールが高速回転しており危険でした。カバーを取り付け、また、巻き込みの危険性について作業員へ周知徹底しました。スプール洗浄機のコンベアーに巻き込まれる危険があったので、回転箇所にカバーを設置しました。



#### ○ 化学回収カンパニー市川工場



### TOPICS 中央労働災害防止協会会長賞を受賞!

中央労働災害防止協会(以下、中災防)より平成30年度の中央労働災害防止協会会長賞を受賞しました。本賞は、中災防の事業活動に深い理解を有し、産業安全および労働衛生の推進向上に努め、著しい成果を収めるとともに、広く地域または業界に対して普及啓発に尽くし顕著な功績が認められる企業等が表彰されるものです。

全社的な安全総点検の実施など、はさまれ・巻き込まれ災害防止を重点に労働災害防止活動に取り組み、顕著な成果をあげたことが評価され、このたびの受賞に至りました。



# 誠実で健全な企業であるために

法令を遵守するだけでなく、社会倫理に照らして正しい事業活動をグローバルに展開するための取り組みを、グループ全体で継続的に推進しています。

## ■ コンプライアンス推進体制

法令を遵守することはもとより、社会倫理に沿った公正で健全な経営を実践しています。コンプライアンスに関する問題や外部からの情報はCSR・広報本部に集約され、弁護士、コンサルタントおよび社外の専門家からの指導・アドバイスを受けながら、是正措置を行い、再発防止策をグループ全体に展開しています。

### ●コンプライアンス推進体制図



## ■ 取引先審査制度の制定

取引のグローバル化に伴うリスクに対応するため、取引先審査制度を制定。CSR・広報本部内に新たに設置した取引先審査部では、人権侵害・紛争・腐敗への加担防止、マネーロンダリングへの関与防止、テロリストへの資金提供防止、制裁対象先や反社会的勢力との取引回避といった観点から、厳正な審査を行っています。

## ■ コンプライアンス教育

コンプライアンス意識の向上と不正行為の防止を図るため、国内・海外駐在員およびナショナルスタッフの役職者を対象として、社内通報制度、独占禁止法遵守、個人情報保護などをテーマに2018年10月より[e-ラーニング]を実施しています。2019年5月現在で380名が受講しました。なお、田中貴金属グループ各拠点所在国のリスクに応じ、2018年度は中国およびドイツの拠点にてセミナーを実施しました。

## ■ 社内通報制度

社内通報制度により、法令違反や不正行為等の早期発見と是正を図っています。通報を受けた社内通報委員会で内容を調査・検討し、必要に応じて当事者や関連部署に是正措置を講じるように指示します。通報者は不利益を受けないよう厳格に保護されます。

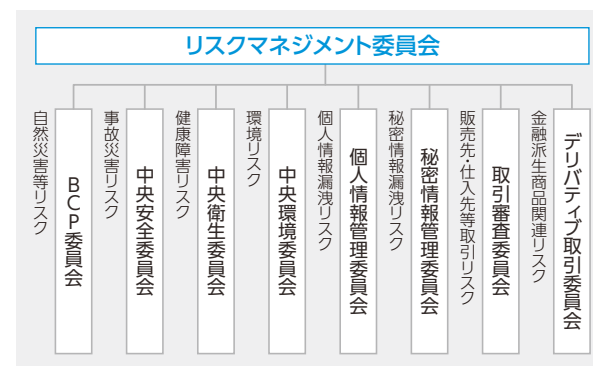


TANAKAホールディングス株式会社 CSR・広報本部 取引先審査部 マネージャー 福島 敦

## ■ リスクマネジメント委員会

経営リスクの低減のため、TANAKAホールディングス社長、各本部長で組織されるリスクマネジメント委員会では、監査役も出席する定例委員会において、リスク評価、対応すべきリスク対応状況の確認、ならびに重要リスクの決定を行っています。同委員会で決定した重要リスクには、個別リスクを管理する各委員会または担当部署がそれぞれ対応しています。

### ●リスクマネジメント体制



## ■ 事業継続計画(BCP)

2018年度は、本社部門の緊急対策本部訓練に加え、各工場・事業所において、大地震を想定した初動対応および事業継続対応の訓練(BCP訓練)を実施しました。訓練で抽出された課題は計画的に改善を行っています。



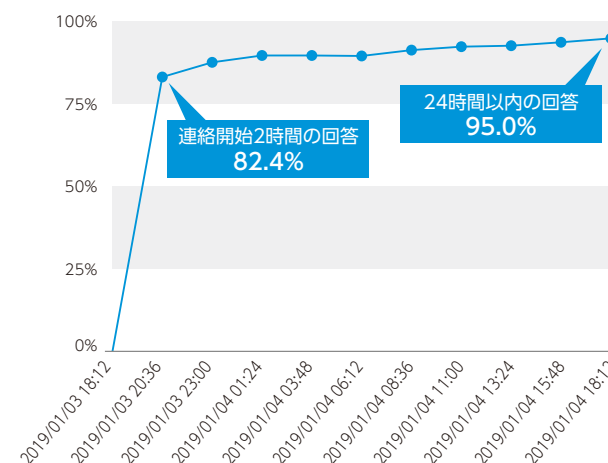
BCP訓練(田中貴金属工業(株)富岡工場)



BCP訓練(台湾田中貴金属工業股份有限公司湖口工場)

また、国内全従業員の安否確認を迅速かつ確実にを行うため安否確認テストを定期的に行っています。全従業員のシステム登録率は100%となっており、長野北部地震(2018年5月)、北海道胆振東部地震(2018年9月)、熊本地震(2019年1月)発生時には発災後24時間以内の回答率がいずれも90%超となりました。

### ●24時間以内の安否回答状況(熊本地震)

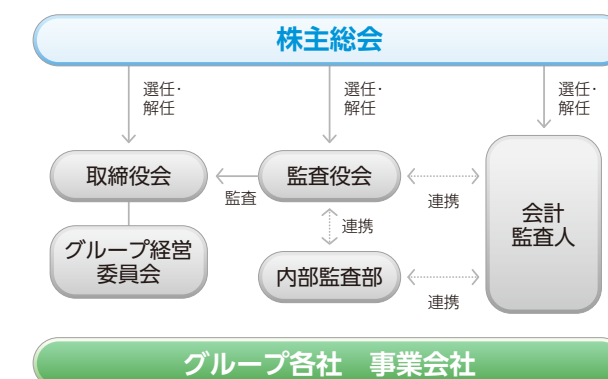


## ■ コーポレート・ガバナンス

田中貴金属グループは、健全で透明性の高い経営を実現するために、経営に対する監視の仕組みを充実させ、常に効率的で競争力のある企業となることを目指しています。

またすべてのステークホルダーの皆様の権利と利益を尊重し適法かつ適正な業務執行および会計等を実現するためにコーポレート・ガバナンス体制を構築し、内部統制基本方針を定めています。この体制と基本方針に基づき取締役会・グループ経営委員会・監査役会・内部監査部がそれぞれの役割を果たしています。

### ●ガバナンス体制図



## TANAKA NOW

取引先審査部は、CSRに関する国際的なガイダンスへの対応と、取引のグローバル化に伴う各国制裁回避を目的として2018年4月に設立されました。

田中貴金属グループ各社が、人権侵害、紛争鉱物、マネーロンダリング、テロ資金供与などに巻き込まれないよう、取引先審査制度を導入し社内に徹底しています。

また、LBMA/LPPM等の認証の維持、RBAなどお客様からの依頼によるCSR監査や調査を通じ、お客様との信頼関係を維持するよう努めています。

# CSRマネジメント

## CSRの考え方

CSR<企業の社会的責任>を果たすための活動を、日常業務から遊離した別ものとしてではなく、あくまでも業務の一環としてとらえて、実行することを目指しています。また、社示に示されているすべてのステークホルダー<利害関係者>に対する基本的な姿勢は、創業当時より一貫してCSR活動の支えともなっています。例えば、「地金はお金」に象徴される創業以来絶えることなく日常的に継続してきた地金リサイクル(P12-13参照)はまさしく環境負荷低減活動となっています。社会貢献活動(P14-15参照)に代表されるコミュニティへの参画、環境における生物多様性への対応(P13参照)などさらに日常業務へ取り込むべく推進活動を継続しています。

- 社 是** 創業以来130年を超えて、品質や生産性、技術力の向上にとどまらず、企業の社会的責任(CSR)を含めた企業活動の全てにわたる基本的な姿勢を「社是」として掲げています。
- 企業理念と行動指針** 「社是」に示された基本姿勢のもと、貴金属業界の先頭に立ち、地球環境保全をはじめとする様々な事業継続活動を実施し、「ゆとりある豊かな社会」の実現に向かって行くことを「企業理念」に謳っています。また、「企業理念」を実現するにあたり、日常活動において心がけるべき5つの基本的な行動姿勢を「社是」とともに「行動指針」として掲げています。
- 行動憲章・行動規範** 日々の活動の中で、社会的責任を果たし持続可能な社会に貢献するための企業行動原則を「行動憲章」「行動規範」としました。ISO26000の7つの中核主題に則り、国内法令の遵守にとどまらず、国際的に認められた基準も含めて尊重することを前提として定めています。また、本規範の遵守を管理するための適切なマネジメントシステムを構築しています。

田中貴金属グループ行動憲章	
組織統治	説明責任と透明性を伴った、健全な事業活動を推進します。
人権	国籍、人種、性別、年齢、社会的身分、職制・職責等に関するあらゆる差別をなくします。
労働慣行	自由闊達な企業風土の中で、安全を最優先し、最高の仕事に取り組みます。
環境	環境保全を推進し、美しい地球の未来に貢献します。
公正な事業慣行	違法精神に基づき、健全な事業活動を推進します。
消費者課題	お客様の信頼と期待に応え、心はずむ瞬間ときを提供します。
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	ゆとりある豊かな社会を目指し、地域社会の活性化に貢献します。

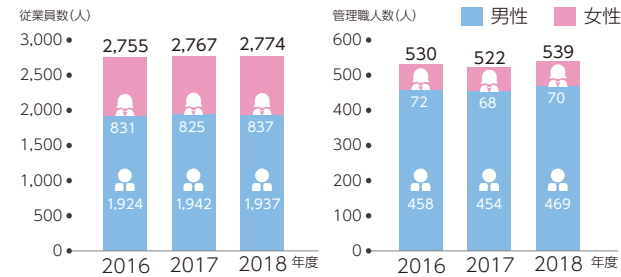
  

田中貴金属グループ行動規範	
人権	1)国籍、人種、民族、肌の色、性別、年齢、宗教、信条、社会的身分、家柄、財産、心身における障がいの有無、政治上の意見等による差別となる行為を一切行いません。 2)児童労働および強制労働を一切行いません。 3)若年労働者には適切な作業環境を提供します。 4)適切な労働時間の管理と賃金の支払いを行います。 5)いやがらせ、侮蔑、言葉による虐待、職務上の立場を利用した不当な強要(いわゆるパワーハラスメント)等の行為を一切行いません。 6)相手および周囲の意に反した性に関する言動等(いわゆるセクシャルハラスメント)の行為を一切行いません。 7)会社や個人に対する誹謗・中傷を行いません。
労働慣行	1)人命尊重を最優先し、労働安全衛生に関する法令を遵守します。 2)安全衛生に関する組織的・継続的な活動の重要性を理解し、積極的な参画を推進します。 3)自己の業務に関わる危険性、心身への有害性を理解し、緊急時への備えを行い、訓練を実施し、事故、災害の未然防止に努めます。 4)従業員の団体交渉および集会への参加の権利を尊重します。 5)従業員に、適切な福利厚生を提供します。
環境	1)環境法規制、地域協定及び社内ルールを遵守します。 2)環境に有害な影響を及ぼす化学物質の管理の徹底と削減を推進します。 3)省エネルギー、省資源化を進め、CO <sub>2</sub> 排出量及び廃棄物の削減を推進します。 4)水資源の適切な管理を推進します。 5)「貴金属のリサイクル(再資源化)」に積極的に取り組みます。
公正な事業慣行	1)独占禁止法およびその他の公正競争を維持するための法令を遵守し、公正かつ自由な競争を行います。 2)金品の贈与、接待、寄付金、政治献金の類については、法令及び社内ルールに従って適正に行います。 3)贈収賄、汚職、強奪、横領を一切行いません。 4)輸出入する貨物・技術については、国際条約、法令および社内ルールに従って適正かつ必要手続きをとりまします。 5)優越的な立場を利用した、取引条件の一方的な変更や購入強制等となる行為を行いません。 6)知的財産権を尊重し、侵害しません。 7)反社会的勢力及び武装勢力と関係する相手とは一切の取引引きを行いません。 8)他企業との相互協力・信頼関係の構築に貢献します。 9)営業秘密について会社ルールに従って管理・保護を行うとともに、営業秘密を他に漏らさず、開示せず、または無断で使用しません。 10)会社の利益に反する個人の行為・行動等、企業倫理上問題のある行為を行いません。 11)会社の資産(情報、製品、商品、備品、機器、消耗品、知的財産、ブランド等の有形・無形の資産等)を適正に管理し、不正・不当に使用しません。 12)取引関係で入手した未公表の情報に基づくインサイダー取引を行いません。 13)コンプライアンス違反防止のため、社内通報制度を設けるとともに、通報者に不利益が無いよう保護します。
消費者課題	1)製品・商品・サービスに適用されるすべての法令を遵守します。 2)競争法や表示に関する法令等に違反しません。 3)お客様、お取引先、従業員等から入手した個人情報保護します。 4)広告等においては、実質的、客観的な根拠に基づく表示を行い、虚偽・誇大な広告を行いません。 5)製品の安全性、製品の品質を確保します。 6)製品・商品・サービスの機能、特徴等に関する情報及び、正しい使い方、使用・利用上の注意等に関する情報を提供します。 7)企業情報を開示して、経営の透明性を高めるとともに、企業の説明責任を果たします。 8)誠実な営業活動・サービス活動を行います。 9)過大景品付販売や欺瞞的な販売方法を用いません。 10)会社の信用に関わる品質問題が発生した場合には、適正な対応を行います。 11)お客様からの問合せ、苦情に対しては、社内ルールやガイドラインに従って対処し、適切なフィードバックを行い、問題の再発を防止します。 12)利用資源の最少化、再生材料の活用、省エネルギーを図る製品・商品・サービスの開発に積極的に取り組みます。
コミュニティへの参画及びコミュニティの発展	学術研究、教育、環境保全、文化芸術活動、地域社会奉仕等の社会貢献活動を行い、地域社会との調和・共存を図ります。

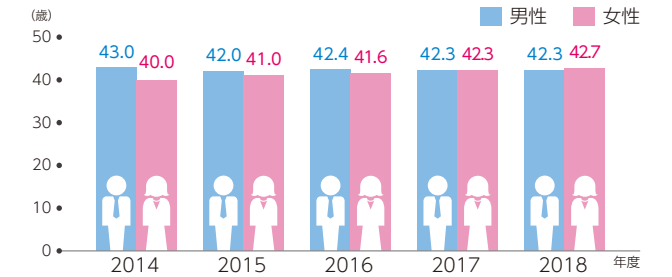
制定日:2008年11月1日  
改訂日:2016年10月1日

# CSRパフォーマンス

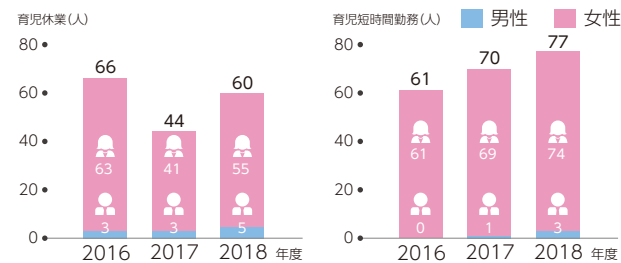
## 【役員・従業員数・管理職人数(国内)】



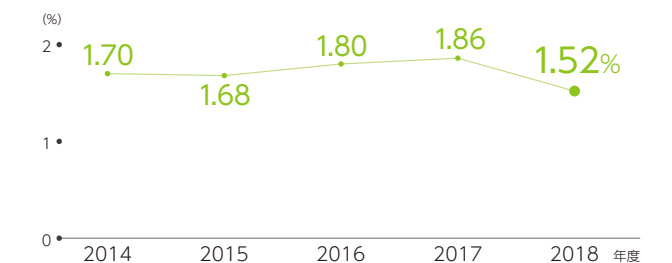
## 【平均年齢(国内)】



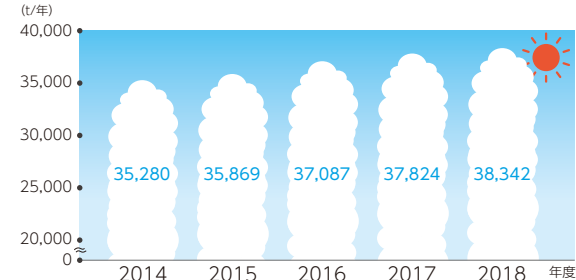
## 【育児休暇等制度の利用人数(国内)】



## 【障がい者雇用率(国内)】

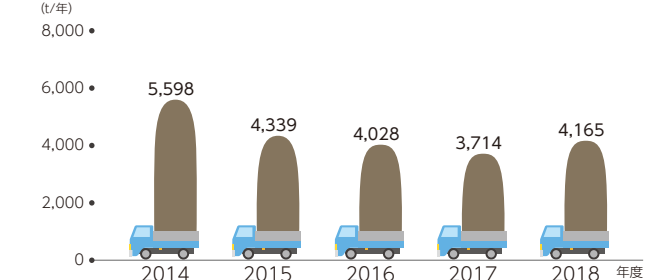


## 【CO<sub>2</sub>排出量】

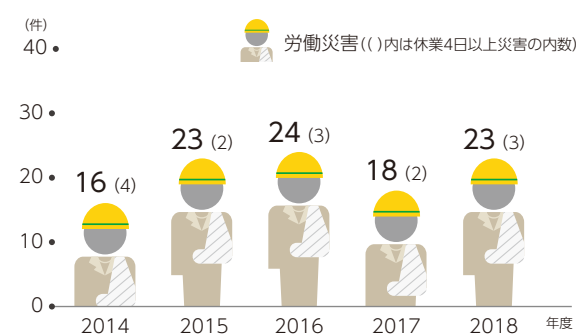


電力によるCO<sub>2</sub>排出量は東京電力エナジーパートナー(株)の2017年度CO<sub>2</sub>排出係数0.462(kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を過去に遡りし毎期使用しています。

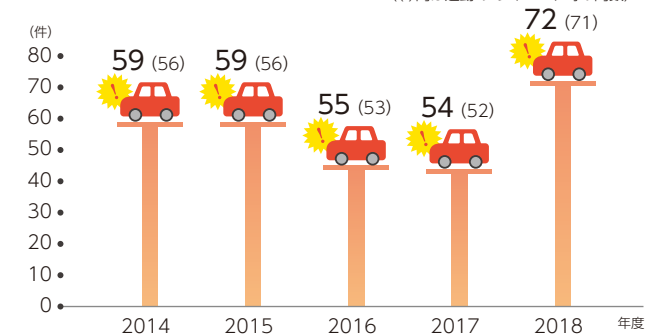
## 【産業廃棄物排出量】



## 【労働災害発生件数】



## 【交通事故発生件数】



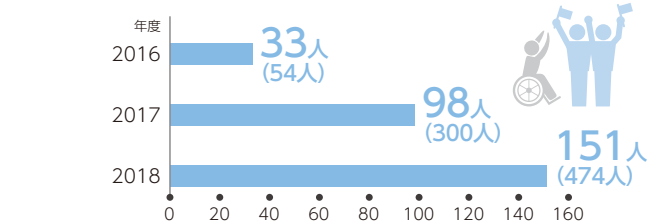
## 【新規特許登録件数(国内)】



## 【東北復興支援ボランティア 桜の植樹本数(累計)】

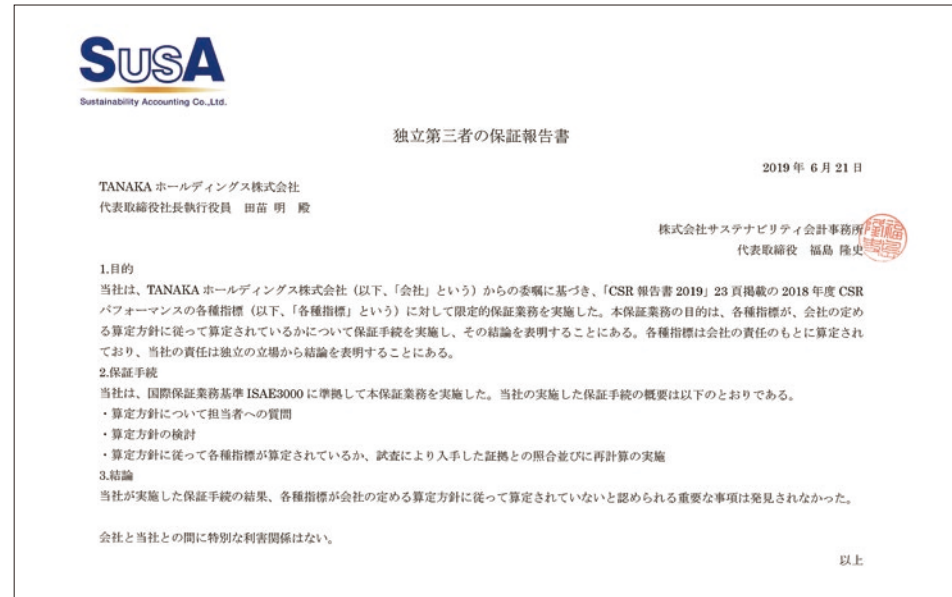


## 【障がい者スポーツ 参加人数 ※実数】



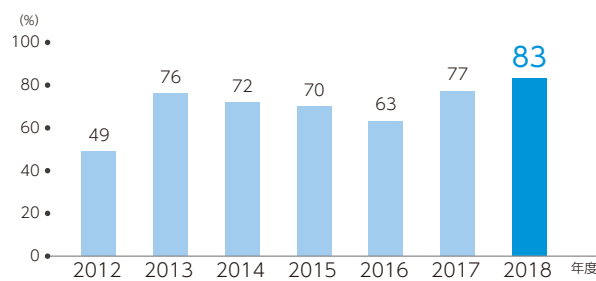
# CSRパフォーマンスに関する第三者保証／「CSR報告書2018」アンケート結果

## ■ 第三者保証

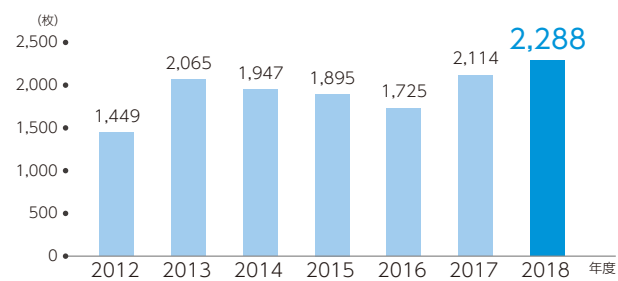


## ■ 「CSR報告書2018」アンケート結果

### 国内従業員回収率



### 回収枚数



### 内容についてどのようにお感じになりましたか？

わかりやすさ	わかりやすい	43%	ふいつう	55%	わかりにくい	2%
記載内容	充実している	44%	ふいつう	55%	不足している	1%
情報量	適切	83%	多すぎる	15%	少なすぎる	2%
デザイン	良い	50%	ふいつう	48%	良くない	2%

## CSR報告書説明会

毎年国内従業員に対して全員昼礼等の機会を利用してCSR報告書の内容を説明しています。アンケートの回収率は2018年度に過去最高の83%となりました。今後もCSR報告書説明会を通して従業員への理解浸透を図ります。

### 昨年度アンケートからの反映

アンケート回答者からのご意見として、「安全対策について具体例が少ない」「CSRパフォーマンスページは、すべて傾向グラフ(年度別)にしてほしい」「もっと研究開発の紹介をしてほしい」等の要望があり、本報告書に反映しました。今後も皆様からのご意見を参考に改善していきます。



CSR報告書説明会  
(TANAKAホールディングス(株))

# ■ 第三者所感

### 【略歴】

横浜国立大学経済学部卒業、日本能率協会を経て淑徳大学国際コミュニケーション学部・経営学部教授。2014年CCI研究所設立。専門は環境／CSRコミュニケーション。主要著書に『インターナル・コミュニケーション経営』『渋沢栄一に学ぶ「論語と算盤」の経営』『環境コミュニケーション』『CSRマネジメント ステークホルダーとの共生と企業の社会的責任』『CC戦略の理論と実践—環境・CSR・共生』『CSRイニシアチブ CSR経営理念・行動憲章・行動基準の推奨モデル』など多数。

筑波学院大学客員教授、CCI研究所代表、  
日本広報学会理事「経営コミュニケーション研究会」部会長、経団連推薦社内報審査員

清水 正道



まず冒頭で、TANAKAの「何かが変わる」「これから楽しみです」とお伝えしたいと思います。毎年スタッフの方々との意見を交わし、主要工場の見学も行ってきました。毎年新しい発見があります。今回はとくに、これまで「内に秘めていた素敵な企業文化」を瞥見できたことと、グローバルな「貴金属の有効利用」とローカルな「生物多様性の保全」とを同時に見せる工夫の2点をあげてみたいと思います。

## ■ 未来につながる”地金はお金”の企業文化

そのことに気がついたのは、田中電子工業(株)佐賀本社工場の会議室でした。TANAKAでは「地金はお金」という言葉が現場で飛び交っていたというのです。「うちの工場にゴミはない」「すべて回収して生まれ変わる」…そこで耳にした言葉は、クリーンルームの作業の場だけでなく、未来社会にも通じるイメージではないか、と思ったものです。

TANAKAの工場を訪ねてみると、感覚としてわかることが文字や映像に移し換えただけではわかりにくい、と何度も

思っていました。ですから、直接形容されなくても、昨年度に富岡工場が「省エネ大賞受賞」、中央労働災害防止協会から「会長賞」というように事実が記載されたり、またCSR評価に関わる「RBA行動規範」や「EcoVadis」のような内外専門機関から認定を受けたりしたとの記述があれば、内部だからわかる「実感」が社外にも具体的な見解や意見として伝わることとなります。

## ■ 「見える化」から「態度・行動」の共有へ

どのような仕事であっても、多様な企業活動の実態は、社会において「見える化」されないと隣のラインの社員にさえ伝わりません。とりわけTANAKAのような事業では、専門性が高いゆえに適切な指標づくりが求められます。該当箇所は「CSRパフォーマンス」です。さらにデザインを工夫すると、さらに説得力が高まるでしょう。本業以外のスポーツや地域・社会への貢献などの活動でも、態度・行動の程度で印象は大きく変わりますので同様です。

参考までに申し上げますが、ここ数年、研究者たちと共同研究をすすめてきたのは、夢や希望などの気持ちを伴った概

念をどう伝え、共有していくか、どう自分ごととして行動してもらうか、でした。50社に及ぶ企業のトップ・役員等へのインタビューを通して分かったことは、誰であれ、言葉だけでなく態度や行動で示すことが重要であり、それを飽きずに続けていくことで想いも伝わり、共有できるのです。

それを視覚的に表現し、読者の関心を高めたのが12-13頁の特集です。資源を循環させるのも放置して環境汚染を引き起こすのも、人々の考えや行動です。そのことを上手に表現したと思います。

## ■ 夢や目標を達成する一つの方法は「小さなことを積み重ねること」

このような粘り強い働きかけが、TANAKAの「さまざまな可能性を拓く」のだと思います。すでにそれは、フレキシブルタッチパネルや燃料電池、手術・治療用部材などの形になりつつありますし、また日刊「CSR通信」の通巻1700号達成にも現れています。

これは毎日1枚ずつ作成される一種の壁新聞。社内に掲示される「眺めただけでも分かる」CSRの知識や事業所からの活動報告であり、企業のCSR関係者の垂涎的になっています。たとえささやかな一歩でも、それが継続されれば誰も

真似すらできない成果となるのです。

今日、デジタル革命とともに「マテリアル革命」も進行中です。貴金属の新たな活用を求められニーズはさらに加速されるでしょう。本誌冒頭で田苗社長が「安全を第一としたうえでの生産性向上」を訴えています。[2020年のありたい姿]に到達するには、逆説のようですが「小さなことを積み重ねること」こそが、王道ではないでしょうか？

ぜひこの「報告書」から、未来への「王道」を探し当てていただければ幸いです。